

# 妙高高原に感謝の寄贈

寄贈した案内板の前で記念撮影する早大ワンダーフォーゲル部と市の関係者ら(5日、妙高市で)



## 早大ワンゲル部

### 案内板や照明灯など

半世紀以上、妙高高原エリアを主な活動地に行っている早稲田大学ワンダーフォーゲル部が、日頃の感謝の気持ちを伝えようと、妙高市に登山道の案内板などを

寄贈した。

同部は1949年に誕生し、今年で創部70周年。63年には妙高市杉野沢地区に、部として初めて山小屋を開設した。以来、山小屋を拠点に市民と交流している。また、山小屋では、早大の一般学生が参加する体育の授業も定期的に行われている。今回の寄贈は、70周年記念の一環で、「日頃の恩返しをしたい」と部のOB・OGで作る稲門ワンダーフォーゲル会(佐藤佳一会長)

が市に相談。登山道案内板が老朽化していたことや、早朝に登山口を出発する登山客が迷わずに済むようにと、案内板と照明灯、電波時計などの寄贈を決めた。寄贈の式典は今日5日、同市の笹ヶ峰火打山登山口で行われ、市や同部関係者ら計約50人が出席した。「ありがとう妙高」の横断幕が掲げられ、締めくくりには同部の現役部員20人が早大の学生歌「早稲田の栄光」を合唱し、周囲の山々にこだましていた。

入村明市長は「自然を守り、自然と生きる。(これからも、同部と市の)心の



登山道入り口に寄贈した電波時計を設置する佐藤会長(左)

先輩たちへの...

本代表として活躍してほしい」と期待していた。

3点の応募があった。協議会に加盟する新聞・通信の

予千晴(同高1年)▽時事通信社賞「お年よりの接し方」小田南(新潟市立五十嵐小5年)

が市に相談。登山道案内板が老朽化していたことや、早朝に登山口を出発する登山客が迷わずに済むようにと、案内板と照明灯、電波時計などの寄贈を決めた。

絆をひとつにしていきたい」と感謝した。

式典に出席した早大競技スポーツセンターの石井昌幸所長によると、山小屋開設前から同部員間では妙高の人氣は高く、全国で5か所程度あった山小屋候補地の中でも、当時の部員の圧倒的な支持で妙高高原が選ばれたという。

吉越昌治前会長は「毎年冬の妙高連山縦走は部の伝統行事で、部員の精神はここで鍛えられる」とこれまで活動を振り返り、佐藤会長も「歴代部員420人は全員、妙高育ちです」と改めて妙高の山々に感謝していた。

### 越路時事

#### 川柳

大野 風柳選

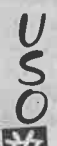
温暖化牛がゲップで悪者に  
慎之助引退新之助進化  
紅葉は10月1日家計簿は  
車中食でコンビニ不足駐車場  
千葉停電ゼロとは言いが暗い家  
新発田市 中  
新潟市 湯  
五泉市 三  
新潟市 豊  
上越市 新

### 鶏卵・東京

(JA全農・) 和・税別)

	高	安	平均
L・L	232	208	215
L・L	228	204	210

おくやみ記事はオンラインでもお任せいただけます。お近くの間販売店(YC)が招待状のIDで利用してください。



特別賞  
けが・休み無し  
したい  
一日本担  
(小千谷)

鹿瀬 津川 齋 渡